



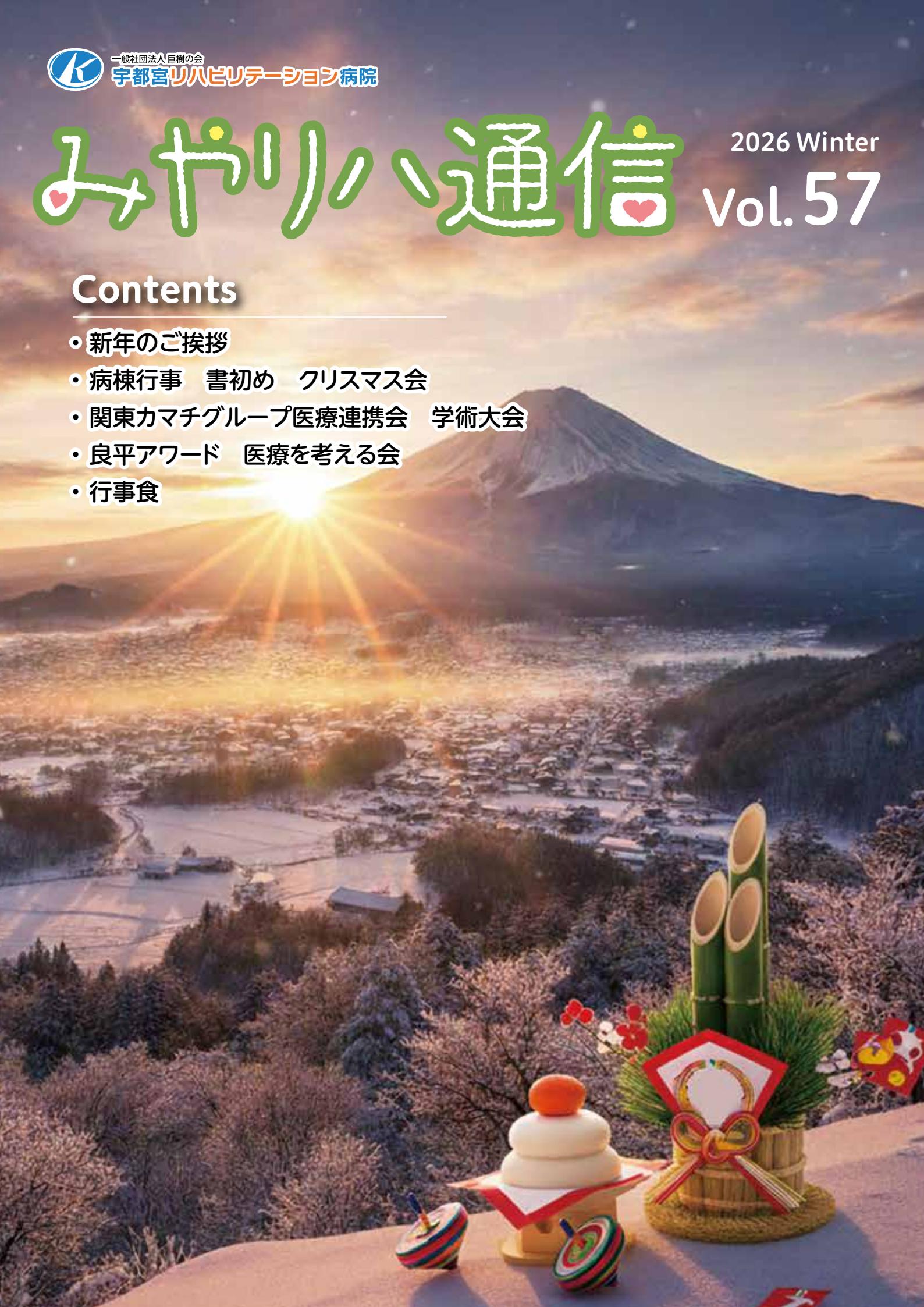
みやリハ通信

2026 Winter

Vol.57

Contents

- ・新年のご挨拶
- ・病棟行事 書初め クリスマス会
- ・関東カマチグループ医療連携会 学術大会
- ・良平アワード 医療を考える会
- ・行事食





新年のご挨拶

一般社団法人巨樹の会
宇都宮リハビリテーション病院
院長 三澤吉雄

新年おめでとうございます。

2026年8月1日、当院は開設15周年を迎えます。これまで支えてくださった地域の皆様に心より感謝申し上げます。今後も当地において、回復期リハビリテーション専門病院として、皆様の健康回復・維持・増進に貢献してまいります。

回復期リハビリテーション病院では、厚生労働省の定めにより、対象となる病気や怪我の患者様お一人につき、1日最大3時間のリハビリテーションを、土日祝日を含め休みなく実施することが義務付けられています。当院では、患者様の体調や疲労度に配慮しながら、午前・午後に分けて無理のない形でリハビリテーションを行っております。

当院の治療実績は、回復が極めて良好とされる最上位区分（回復期リハビリテーション入院料1）を算定しております。また、九州および関東にある巨樹の会関係の28病院・クリニックと連携し、日頃から情報交換や人事交流を通じて、医療の質と安全性の向上に努めております。

診療体制としては、済生会宇都宮病院、NHO栃木医療センター、獨協医科大学病院から専門医の派遣を受け、整形外科・脳神経内科・総合内科の分野において、専門的な診療を行っております。

リハビリテーションでは、歩行などの移動動作（理学療法）、着替えやトイレ動作（作業療法）、飲み込みや会話（嚥下・言語療法）といった分野を、それぞれの専門スタッフが担当します。医師をはじめ、看護師、看護補助員、栄養士、薬剤師、社会福祉士、事務職員が緊密に連携し、患者様の円滑な退院に向けた支援を行っております。

嚥下リハビリテーションについては、2022年より自治医科大学附属病院耳鼻咽喉科医師の協力を得て、より専門的で質の高い支援体制の充実を図っています。さらに、手術後や肺炎などの治療後に体力低下を来す、いわゆる廃用症候群の患者様に対するリハビリテーションにも力を入れております。

当院で対応可能な疾患や入院相談などにつきましては、
連携室（代表電話：028-662-6789）までお気軽にお問い合わせください。
本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



病棟レクリエーション

当院では、入院生活やリハビリテーションを頑張っている患者様に、季節を感じ明るい気持ちになつていただけるように様々なイベントやレクリエーションを開催しています。

書初め

新しい一年の始まりに病棟行事として書初めを行いました!

患者様お一人おひとりが思いを込めて筆を取り、真剣に文字と向き合う姿にスタッフも温かな気持ちになりました。

それぞれの書には、その方らしい願いや気持ちがあふれ、病院全体が新春の雰囲気に包まれました。



クリスマス会

今年も当院恒例のクリスマスイベントを開催しました。

院長、名誉院長がサンタクロースに扮し、入院患者様へプレゼントをお届けしました。また、外来ではサンタ姿の医師が診察を行いました。

患者様からは、「一人暮らしなので久しぶりのクリスマスが嬉しい」「こんな楽しい病院は初めて」「一緒に写真が撮りたい」といったお声をいただき、職員にとっても大変幸せな1日となりました。



Merry
Christmas



カマチグループ医療連携会(栃木地区)が開催されました

10月23日(木)「カマチグループ医療連携会(栃木地区)」が開催され、医療・介護関係者を中心に約300名の方にご参加いただきました。

1部では、栃木地区3病院による年間実績報告を行い、症例報告では身寄りに問題を抱え意思表示が困難な患者様への取り組みについてご報告いたしました。2部懇親会では、短い時間ではありましたが、ご参加いただいた皆様と意見交換をさせていただくことができました。

これからも地域の皆様に、より円滑な連携と迅速な対応で、安心安全な医療とリハビリテーションを提供して参ります。



第23回 関東KG学術大会が開催されました

9月20日(土)、八千代リハビリテーション病院にて「第23回 関東KG学術大会」が開催されました。

本大会には、関東の関連施設から約400名の職員が参加し、日々の実践に基づいた研究成果や取り組みを共有する貴重な機会となりました。

当院は今回、幹事病院として大会の企画・運営に携わり、円滑な進行と充実したプログラムの実現に尽力しました。大会を通じて、施設間の連携強化や職員同士の交流が促進され、実りの多い大会となりました。



第2回 良平アワード 看護部門で当院看護師が受賞

「良平アワード」は、わずか41歳という、決して長くはなかった生涯を当グループに捧げ、真摯に医療に向き合い続けた故・蒲池良平先生の精神を継承するために創設されたものです。

良平アワード基金は、良平先生の、現場に立つものとしての情熱と献身に倣い、同じ志を持って貢献した職員を表彰し支援するものです。このたび、当院看護師が看護部門において、顕著な功績を認められ受賞式に参加いたしました。仲間の活躍は、全職員にとって大きな励みを与えてくれます。そして、今後も良平先生の志が風化することなく受け継がれていくよう、精進して参ります。



今回このような名誉ある賞を受賞させていただき大変光栄です。

看護師からケアワーカーへのタスクシフト、タスクシェアに注目し、業務改善に取り組んでいます。看護師とケアワーカーの情報共有と業務連携を強化し、安心、安全な療養環境に繋がるように、これからも尽力していきたいと思います。



第4回 医療を考える会 2025

10月25日(土)、福岡県福岡市にある令和健康科学大学で、「医療を考える会 2025」が開催されました。

2021年に「看護を考える会」として始まったこの講演会も今年で4年目を迎えました。

今年は、「医療の未来を描くキャリアと多職種連携」をテーマに、～各施設の一押し!夢中でワクワクしている多職種での取り組み～が新企画され、当院では「フローチャートを用いた多職種によるトイレ介入促進の取り組み」について発表しました。他施設からの様々な意見や質問をいただき、大変貴重な経験と学びの機会となりました。



行事食

【年越しメニュー】



メニュー

- 年越しそば
- 天ぷらの盛り合わせ
- かぶの浅漬け
- 抹茶ようかん

【新年お祝い膳】



メニュー

- 赤飯
- おせち料理
- 清し汁



栄養科からのコメント

普段使わない料理や食材を使用し、見た目も華やかに仕上げることができました。入院生活を送る患者様に食事からも季節を感じていただき、より一層リハビリを頑張る活力となるよう、今後も栄養科スタッフ一丸となり心のこもった食事提供を目指して参ります。



患者様からの声

- ・そばを食べて年を越せてよかったです。
- ・天ぷらがサクサクで美味しかった。
- ・おせち料理は品数もあり、お正月を感じることができた。

むすび プロジェクト



「むすびプロジェクト」は当グループのリハビリ病院を退院された患者様が、
その人らしく生きいきと生活していただけるよう、支援するための取り組みです。
今回はその取り組みのひとつをご紹介いたします。

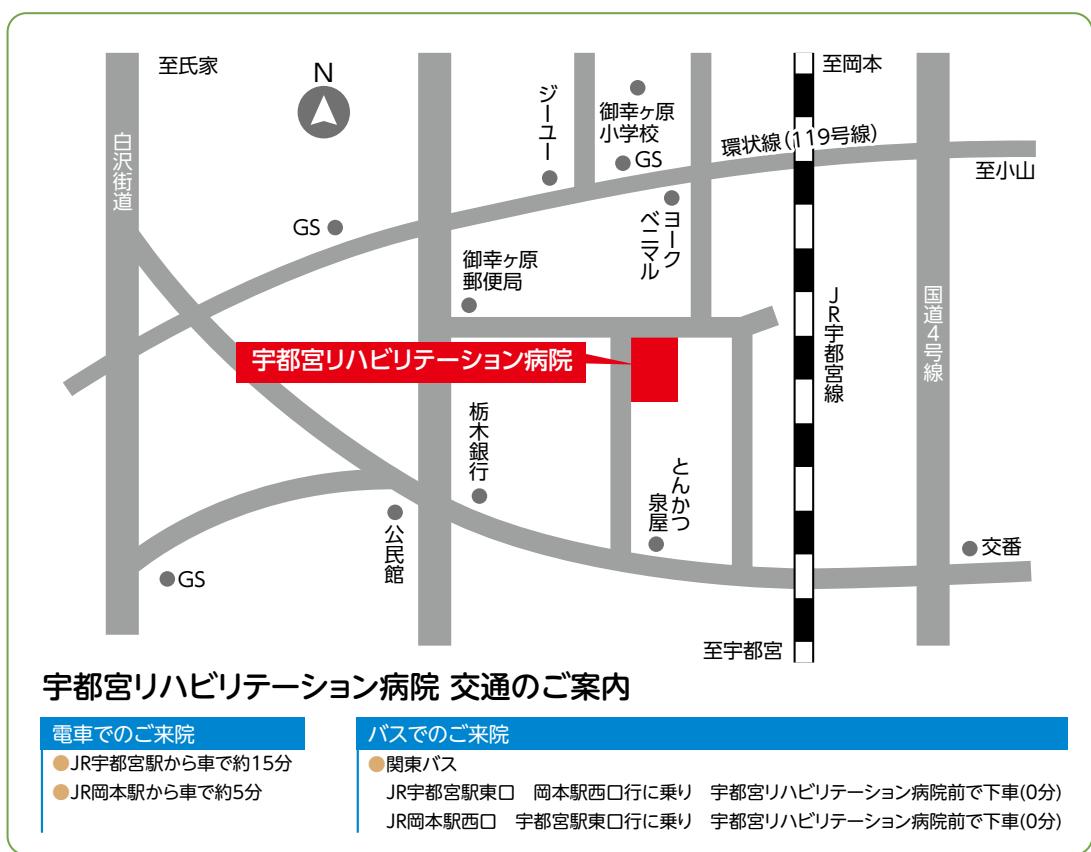
福祉と医療の連携について ～列島会・あきの会施設見学の実施～



令和7年6月28日、令和健康科学大学において「福祉と医療の連携を考える会」が開催されました。本会は、列島会・ゆとり・あきの会の3法人が主催し、医療や福祉の現場で実際に行われている支援の取り組みが発表されました。発表では、利用者一人ひとりの個性を尊重した多様な支援のあり方が数多く紹介されました。

今回の会に先立ち、私達は列島会およびあきの会の各施設を見学する機会をいただきました。列島会では、全国でも受注売上が高く、規模の大きな就労支援事業所を展開しており、とりわけ障がいの特性を活かした芸術活動が印象的でした。現在は4名のアーティストの方々が、それぞれの感性を活かして創作に取り組んでいました。あきの会では、「障害児医療生活支援ホーム 虹の家」を運営しており、特に「在宅療養児一時受け入れ支援事業」に力を注いでいます。併設の「なないろ診療所」では、施設利用中に受診や薬の処方も可能で、ご家族のニーズに寄り添った支援が行われている点が大変印象的でした。見学を通して、患者さんが病院を退院された後の「生活期」にこそ、継続的であたたかな支援が必要であることをあらためて認識する機会となりました。

今回学んだことを今後の活動に生かすために、むすびプロジェクトでは「地域を支え、人に寄り添い、人生を応援する」という理念を大切にしながら、これからも活動を続けてまいります。



病院見学
対応して
あります。

月曜日～金曜日(祝日を除く)9:00～17:00

TEL 028-689-6878(連携室直通)

※ご希望の際は事前にご連絡くださいますようお願いいたします。



宇都宮リハビリテーション病院 広報誌

みやリハ通信

2026 Winter

Vol.57 (令和8年1月発行)

企画発行



宇都宮リハビリテーション病院

日本医療機能評価機構認定病院

〒321-0982 栃木県宇都宮市御幸ヶ原町43-2

28-660-1041